



やましん

中小企業景況レポート

山梨信用金庫 総合企画部
〒400-0032 甲府市中央 1-12-36
TEL 055-225-0213
ホームページアドレス
<http://www.yamasin.jp/>

2015. 1. 15 発行

■ 調査要領 ■

1. 調査対象
当金庫営業エリア内の取引先中小企業 120 社
2. 調査時期・期間
調査時期：2014年12月1日～5日
調査期間：今期実績 2014年10月～12月
来期見通し 2015年1月～3月
3. 調査方法
当金庫職員による訪問聞き取り調査
4. 分析方法
DI を中心に分析

■ 調査対象と回答状況 ■

業種	企業数	回答数	回答率
製造業	30	30	100%
卸売業	15	15	100%
小売業	15	15	100%
サービス業	29	29	100%
建設業	23	22	95%
不動産業	8	7	87%
合計	120	118	98%

※ 国中地区 73 社、東部地区 30 社、相模原市周辺地区 17 社

※ DI (Diffusion Index) とは

各質問事項で「良い(増加)」とした企業割合 - 「悪い(減少)」とした企業割合の構成比との差(判断DI)による分析です。
例えば、回答が以下のような場合のDIの算出方法は、次のとおりです。

(例) 「良い・やや良い」の回答が50%、「変わらず」の回答が30%、「悪い・やや悪い」の回答が20%の場合

DIは $50「良い・やや良い」 - 20「悪い・やや悪い」 = +30$ となります。DI値が高いほど景気が良いことを示しています。

業況判断DI

業種	前期	今期実績			来期見通し		
		良い	悪い	DI	良い	悪い	DI
総合	▲2.5	27.1	26.3	0.8	21.2	39.8	▲18.6
製造業	▲10.3	40.0	20.0	20.0	23.3	40.0	▲16.7
卸売業	▲26.7	6.7	46.7	▲40.0	13.3	40.0	▲26.7
小売業	▲40.0	26.7	40.0	▲13.3	26.7	40.0	▲13.3
サービス業	27.6	27.6	24.1	3.4	20.7	44.8	▲24.1
建設業	9.1	27.3	13.6	13.6	27.3	27.3	0.0
不動産業	0.0	14.3	28.6	▲14.3	0.0	57.1	▲57.1

業種別景気天気図

業種	前期	今期	見通し
総合			
製造業			
卸売業			
小売業			
サービス業			
建設業			
不動産業			

※本レポートは、標記時点における情報提供を目的としております。また、掲載資料は、正確性・完全性を保証するものではありません。

31以上	11~30	10~▲10	▲11~▲30	▲30未満

概況

<業況・売上・収益>

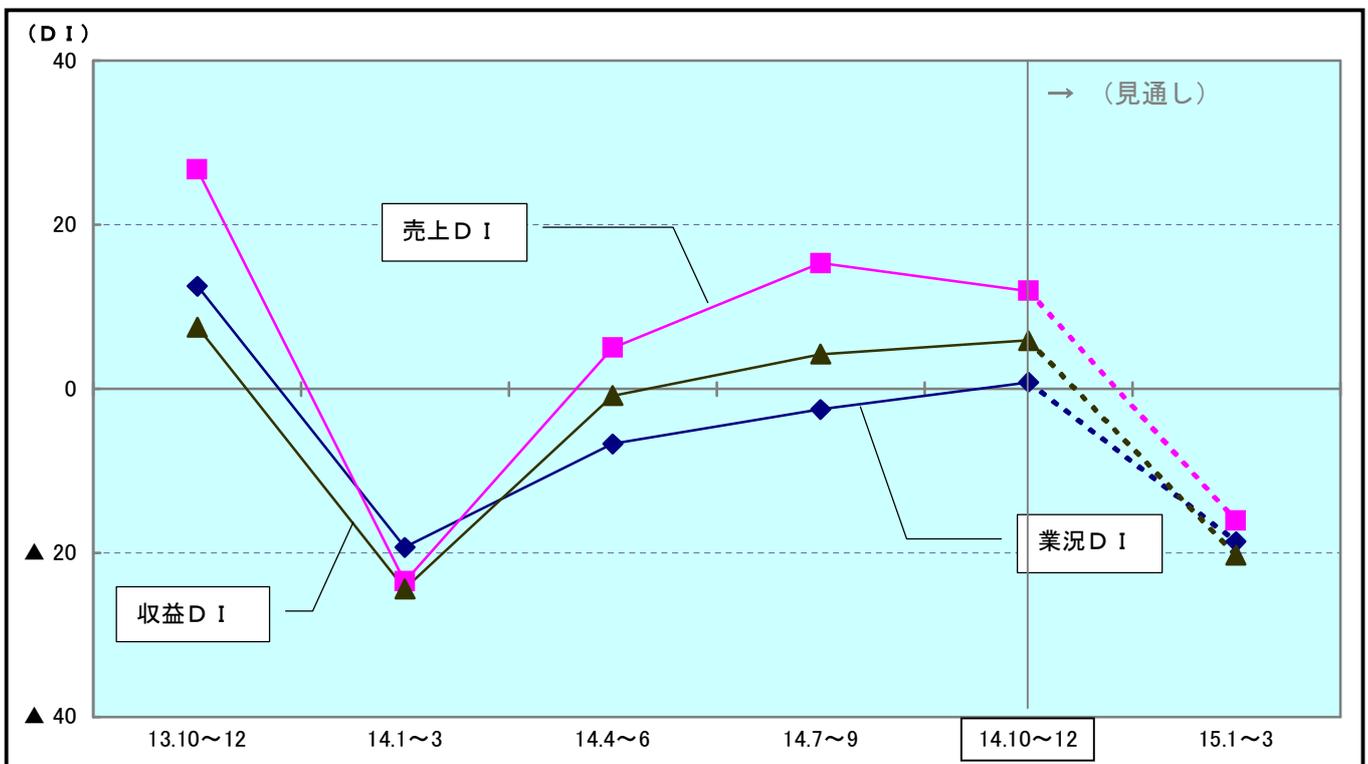
今期（10～12月）の全業種総合の業況判断DI（「良い」－「悪い」）は、前期（7～9月）の▲2.5から3.3ポイント改善の0.8となりました（前年同期比11.7ポイント悪化）。業種別にみると、卸売業・サービス業・不動産業で悪化したものの、その他の業種で改善しております。

また、売上DI（「増加」－「減少」）は、製造業・小売業・不動産業で改善したものの、その他の業種で悪化したことから、前期比3.4ポイント悪化の11.9となっています（前年同期比14.8ポイント悪化）。収益DI（「増加」－「減少」）は、卸売業・サービス業で悪化したものの、その他の業種で改善したことから前期比1.7ポイント改善の5.9となっています（前年同期比1.6ポイント悪化）。

全業種総合の来期見通し（1～3月）は、全体の景況感を表す業況判断DIが▲18.6と、今期実績比19.4ポイントの悪化を見込んでいます。また、売上DIは▲16.1と、同比28.0ポイントの悪化、収益DIは▲20.3と、同比26.2ポイントの悪化を見込んでおります。業種別の業況判断DIは、卸売業で改善を見込んでいるものの、製造業・サービス業・建設業・不動産業で悪化を見込んでおります。

■ 業況・売上・収益DIの時系列推移

	13.10～12	14.1～3	14.4～6	14.7～9	14.10～12	15.1～3 見通し
業況 DI	12.5	▲19.3	▲6.7	▲2.5	0.8	▲18.6
売上 DI	26.7	▲23.5	5.0	15.3	11.9	▲16.1
収益 DI	7.5	▲24.4	▲0.8	4.2	5.9	▲20.3



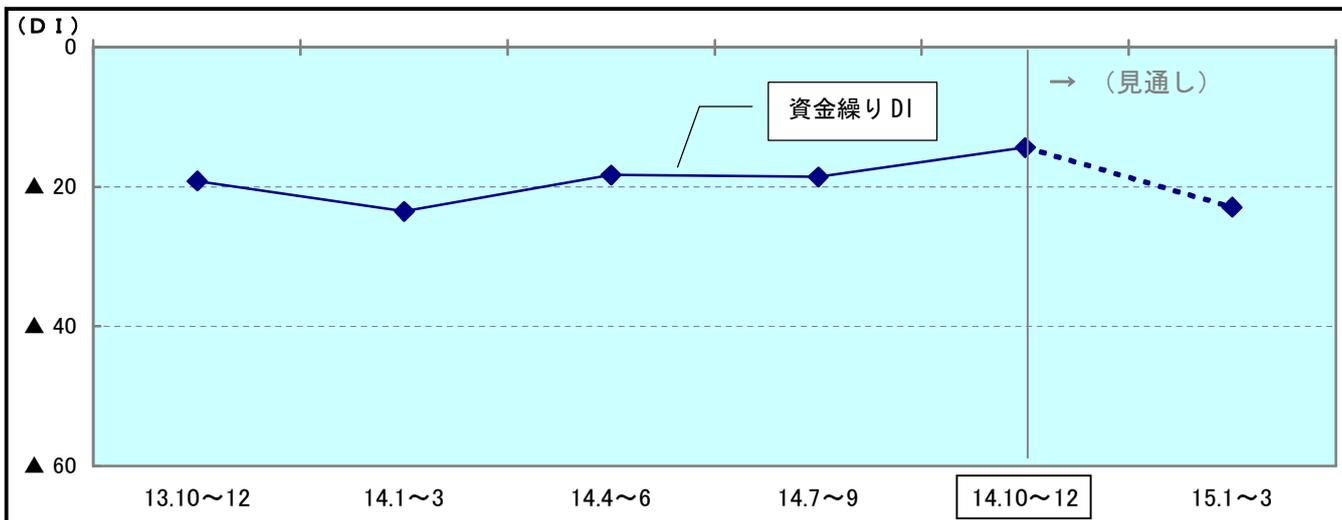
<資金繰り>

資金繰りDI（「楽」－「苦しい」）は▲14.4と、前期比4.2ポイントの改善となりました（前年同期比3.9ポイント改善）。

また、来期の資金繰りDIは▲22.9と、今期実績比8.5ポイントの悪化を見込んでいます。

■ 資金繰りDIの時系列推移

	13.10~12	14.1~3	14.4~6	14.7~9	14.10~12	15.1~3 見通し
資金繰りDI	▲18.3	▲23.5	▲18.3	▲18.6	▲14.4	▲22.9



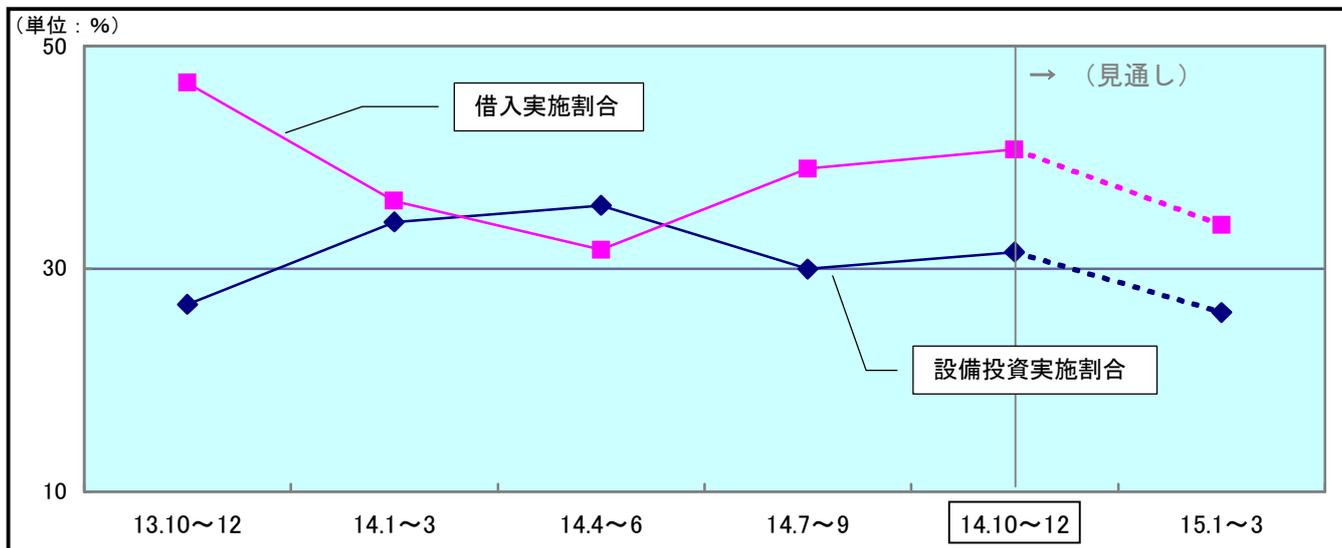
<設備投資・借入動向>

不動産業を除いた設備投資実施企業割合は31.5%と、前期比1.5ポイント上昇しております（前年同期比4.7ポイント上昇）。また、来期の設備投資実施予定企業割合は26.1%と今期実績比5.4ポイントの低下を見込んでいます。

全業種総合の借入実施企業割合は40.7%と、前期比1.7ポイント上昇しております（前年同期比6.0ポイント低下）。また、来期の借入実施予定企業割合は33.9%と、今期実績比6.8ポイントの低下を見込んでいます。

■ 設備投資・借入実施動向の時系列推移

	13.10~12	14.1~3	14.4~6	14.7~9	14.10~12	15.1~3 見通し
設備投資実施割合	26.8%	34.2%	35.7%	30.0%	31.5%	26.1%
借入実施割合	46.7%	36.1%	31.7%	39.0%	40.7%	33.9%



【製造業】

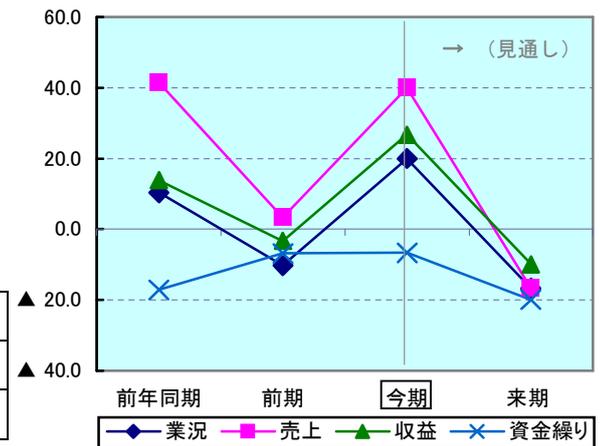
今期の業況判断D Iは20.0と、前期（7～9月）と比べて30.3ポイント改善となりました（前年同期比9.7ポイント改善）。なお、売上D Iは前期比36.6ポイント改善の40.0、収益D Iは同比30.1ポイント改善の26.7とすべてのD Iで改善となっております。

来期（1～3月）の業況判断D Iは▲16.7と、今期実績比36.7ポイント悪化を見込んでいます。また、売上D Iは同比56.7ポイント悪化の▲16.7、収益D Iは同比36.7ポイント悪化の▲10.0とすべてのD Iで悪化を見込んでいます。

今期の資金繰りD Iは、前期比0.2ポイント改善の▲6.7、来期は今期実績比13.3ポイント悪化の▲20.0を見込んでいます。

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	10.3	▲10.3	20.0	▲16.7
売上	41.4	3.4	40.0	▲16.7
収益	13.8	▲3.4	26.7	▲10.0
資金繰り	▲17.2	▲6.9	▲6.7	▲20.0



■経営上の問題点 ()内は前回順位

1	売上の停滞・減少(1)	46.7%
	利幅の縮小(2)	46.7%
3	原材料高(4)	40.0%

■当面の重点経営施策

1	経費の節減(1)	66.7%
2	販路の拡大(1)	53.3%
3	新製品・技術の開発(4)	30.0%

【卸売業】

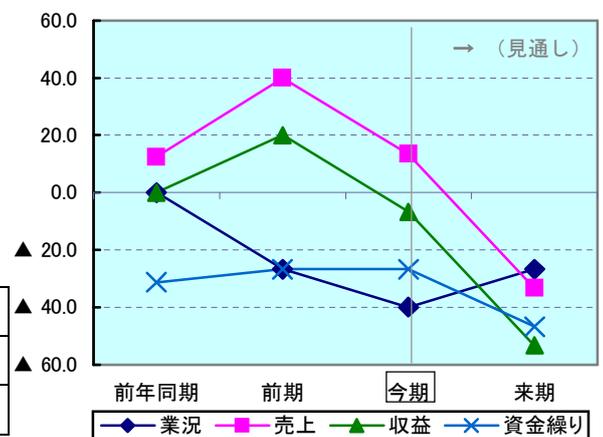
今期の業況判断D Iは▲40.0と、前期（7～9月）と比べて13.3ポイント悪化となりました。（前年同期比40.0ポイント悪化）。また、売上D Iは前期比26.7ポイント悪化の13.3、収益D Iは同比26.7ポイント悪化の▲6.7とすべてのD Iで悪化となっております。

来期（1～3月）の業況判断D Iは▲26.7と、今期実績比13.3ポイントの改善を見込んでいます。また、売上D Iは同比46.6ポイント悪化の▲33.3、収益D Iは同比46.6ポイント悪化の▲53.3を見込んでおります。

今期の資金繰りD Iは、前期比横ばいの▲26.7、来期は今期実績比20.0ポイント悪化の▲46.7を見込んでいます。

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	0.0	▲26.7	▲40.0	▲26.7
売上	12.5	40.0	13.3	▲33.3
収益	0.0	20.0	▲6.7	▲53.3
資金繰り	▲31.3	▲26.7	▲26.7	▲46.7



■経営上の問題点 ()は前回順位

1	売上の停滞・減少(2)	66.7%
2	同業者間の競争激化(2)	46.7%
3	利幅の縮小(1)	40.0%

■当面の重点経営施策

1	販路の拡大(1)	80.0%
2	経費の節減(2)	40.0%
	品揃えの充実(3)	40.0%

【小売業】

今期の業況判断D Iは▲13.3と、前期（7～9月）と比べて26.7ポイント改善となりました。（前年同期比6.7ポイント改善）。売上D Iは同比13.4ポイント改善の6.7、収益D Iは同比20.0ポイント改善の13.3とすべてのD Iで改善となっております。

来期（1～3月）の業況判断D Iは▲13.3と、今期実績比横ばいを見込んでいます。売上D Iは同比13.4ポイント悪化の▲6.7、収益D Iは同比33.3ポイント悪化の▲20.0を見込んでいます。

今期の資金繰りD Iは、前期比20.0ポイント改善の▲26.7、来期は今期実績比6.6ポイント悪化の▲33.3を見込んでいます。

■経営上の問題点（）は前回順位

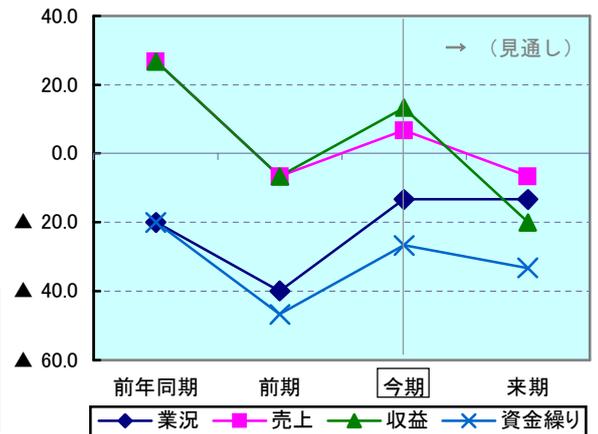
1	売上の停滞・減少(1)	46.7%
2	同業者間の競争激化(3)	40.0%
3	利幅の縮小(2)	20.0%

■当面の重点経営施策

1	経費の節減(1)	53.3%
2	宣伝・広告強化(2)	33.3%
	教育訓練の強化(8)	33.3%

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲20.0	▲40.0	▲13.3	▲13.3
売上	26.7	▲6.7	6.7	▲6.7
収益	26.7	▲6.7	13.3	▲20.0
資金繰り	▲20.0	▲46.7	▲26.7	▲33.3



【サービス業】

今期の業況判断D Iは3.4と、前期（7～9月）と比べて24.2ポイント悪化となりました（前年同期比17.3ポイント悪化）。売上D Iは同比58.6ポイント悪化の▲10.3、収益D Iは同比37.9ポイント悪化の▲6.9とすべてのD Iで悪化となっております。

来期（1～3月）の業況判断D Iは▲24.1と、今期実績比27.5ポイントの悪化を見込んでいます。また、売上D Iは同比13.8ポイント悪化の▲24.1、収益D Iは同比17.2ポイント悪化の▲24.1とすべてのD Iで悪化を見込んでいます。

今期の資金繰りD Iは、前期比3.4ポイント改善の▲13.8となりました。来期は今期実績比3.4ポイント悪化の▲17.2を見込んでいます。

■経営上の問題点（）は前回順位

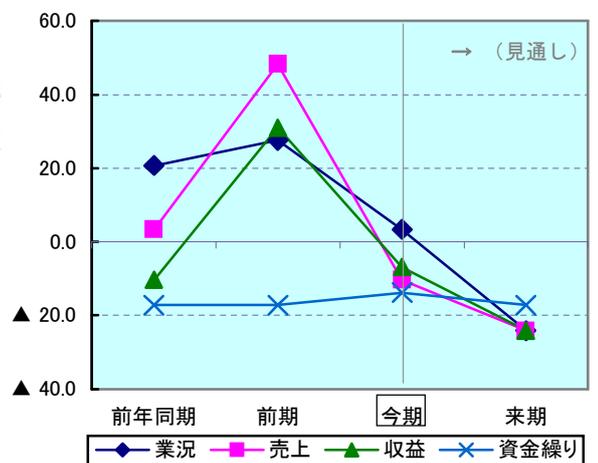
1	売上の停滞・減少(1)	48.3%
2	材料価格の上昇(1)	31.0%
3	利幅の縮小(4)	27.6%

■当面の重点経営施策

1	経費の節減(1)	58.6%
2	教育訓練強化(3)	41.4%
3	販路の拡大(2)	37.9%
	人材の確保(3)	37.9%

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	20.7	27.6	3.4	▲24.1
売上	3.4	48.3	▲10.3	▲24.1
収益	▲10.3	31.0	▲6.9	▲24.1
資金繰り	▲17.2	▲17.2	▲13.8	▲17.2



【建設業】

今期の業況判断D Iは13.6と、前期（7～9月）と比べて4.5ポイント改善となりました（前年同期比25.5ポイント悪化）。また、売上D Iは前期比4.5ポイント悪化の0.0、収益D Iは同比4.5ポイント改善の▲9.1となっております。

来期（1～3月）の業況判断D Iは0.0と、今期実績比13.6ポイント悪化を見込んでおります。また、売上D Iは同比9.1ポイント改善の9.1、収益D Iは同比9.1ポイント改善の0.0を見込んでいます。

今期の資金繰りD Iは、前期比横ばいの▲13.6、来期も今期実績比横ばいの▲13.6を見込んでいます。

■経営上の問題点（）は前回順位

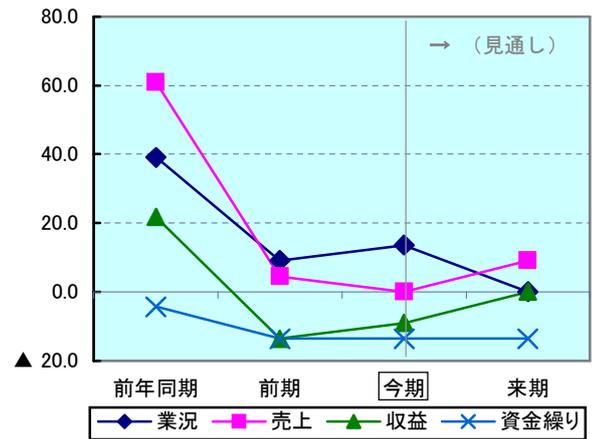
1	下請の確保難(2)	40.9%
2	同業者間の競争の激化(1)	31.8%
	材料価格の上昇(3)	31.8%
	利幅の縮小(4)	31.8%

■当面の重点経営施策

1	人材の確保(4)	45.5%
2	経費の節減(1)	40.9%
	技術力の強化(3)	40.9%

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	39.1	9.1	13.6	0.0
売上	60.9	4.5	0.0	9.1
収益	21.7	▲13.6	▲9.1	0.0
資金繰り	▲4.3	▲13.6	▲13.6	▲13.6



【不動産業】

今期の業況判断D Iは▲14.3と、前期（7～9月）と比べて14.3ポイント悪化となりました（前年同期比14.3ポイント悪化）。売上D Iは前期比66.1ポイント改善の28.6、収益D Iは同比53.6ポイント改善の28.6とすべてのD Iで改善となっております。

来期（1～3月）の業況判断D Iは▲57.1と、今期実績比42.8ポイント悪化を見込んでおります。売上D Iは同比71.5ポイント悪化の▲42.9、収益D Iは同比71.5ポイント悪化の▲42.9を見込んでいます。

今期の資金繰りD Iは、前期比12.5ポイント改善の0.0、来期今期実績比14.3ポイント悪化の▲14.3を見込んでいます。

■経営上の問題点（）は前回順位

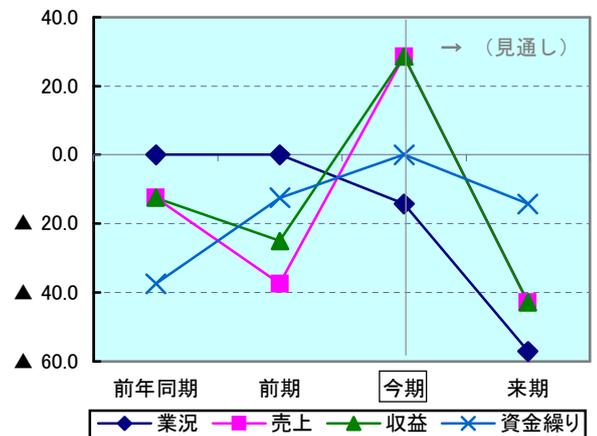
1	売上の停滞・減少(1)	57.1%
	利幅の縮小(3)	57.1%
3	人手不足(2)	42.9%
	商品物件の不足(3)	42.9%

■当面の重点経営施策

1	情報力強化(1)	57.1%
	経費の節減(2)	57.1%
3	販路の拡大(2)	42.9%
	宣伝・広告の強化(4)	42.9%

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	0.0	0.0	▲14.3	▲57.1
売上	▲12.5	▲37.5	28.6	▲42.9
収益	▲12.5	▲25.0	28.6	▲42.9
資金繰り	▲37.5	▲12.5	0.0	▲14.3



<地区別DIの状況>

	国 中 地 区				東 部 地 区				相 模 原 市 周 辺 地 区			
	前年同期	前期	今期	来期	前年同期	前期	今期	来期	前年同期	前期	今期	来期
業況DI	12.3	▲5.7	▲8.7	▲14.5	13.3	▲10.0	13.3	▲23.3	11.8	23.5	17.6	▲11.8
売上DI	28.8	17.1	11.6	▲8.7	36.7	10.0	6.7	▲26.7	0.0	17.6	17.6	▲11.8
収益DI	8.2	2.9	2.9	▲17.4	13.3	6.7	6.7	▲26.7	▲11.8	11.8	11.8	▲17.6

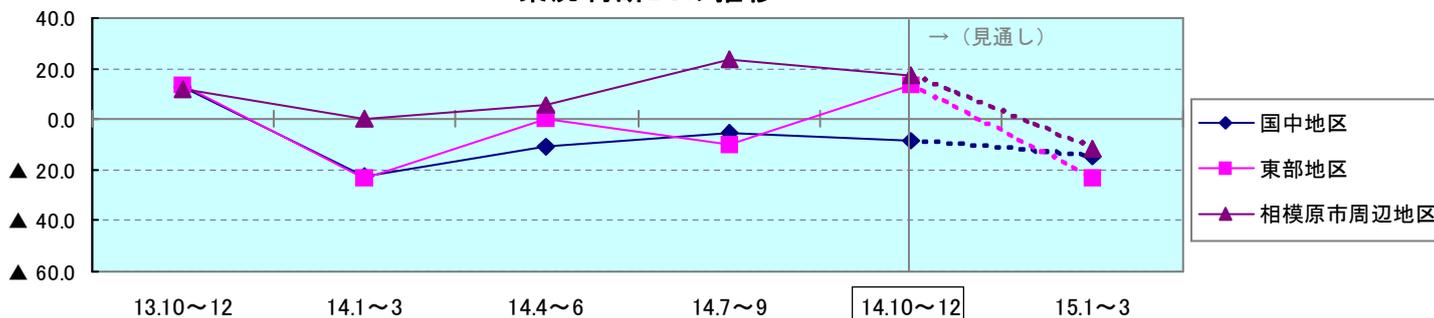
国中地区の状況は、業況判断DIが▲8.7と、前期（7～9月）の▲5.7から3.0ポイントの悪化となりました（前年同期比21.0ポイント悪化）。また、売上DIは前期比5.5ポイント悪化の11.6、収益DIは同比横ばいの2.9となりました。なお、来期（1～3月）の業況判断DIは今期実績比5.8ポイント悪化の▲14.5を見込んでいます。

東部地区の状況は、業況判断DIが13.3と、前期の▲10.0から23.3ポイントの改善となりました（前年同期比横ばい）。また、売上DIは前期比3.3ポイント悪化の6.7、収益DIは同比横ばいの6.7となりました。なお、来期の業況判断DIは▲23.3と今期実績比36.6ポイントの悪化を見込んでいます。

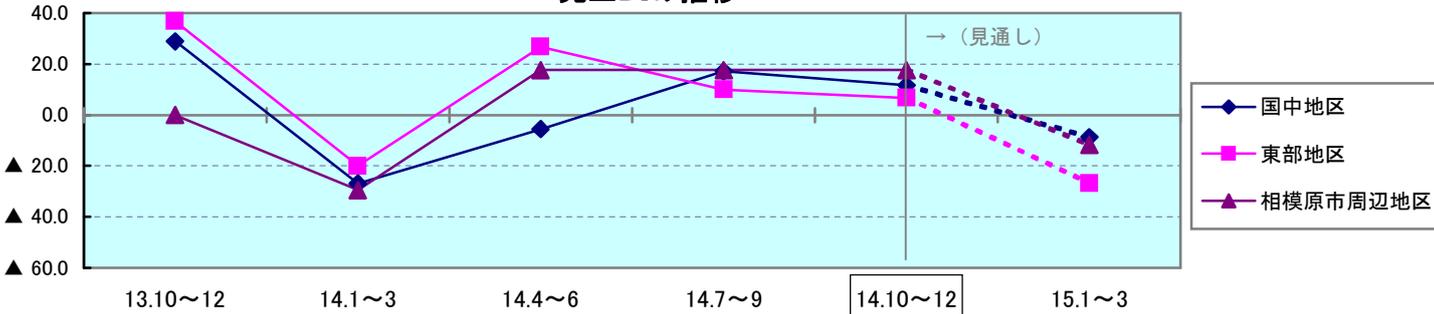
相模原市周辺地区の状況は、業況判断DIが17.6と、前期の23.5から5.9ポイントの悪化となりました（前年同期比5.8ポイント改善）。また、売上DIは前期比横ばいの17.6、収益DIは同比横ばいの11.8となりました。なお、来期の業況判断DIは▲11.8と今期実績比29.4ポイントの悪化を見込んでいます。

地区別に見た景況感は、東部地区で改善となりました。なお、来期についてはすべての地区で悪化を見込んでおります。

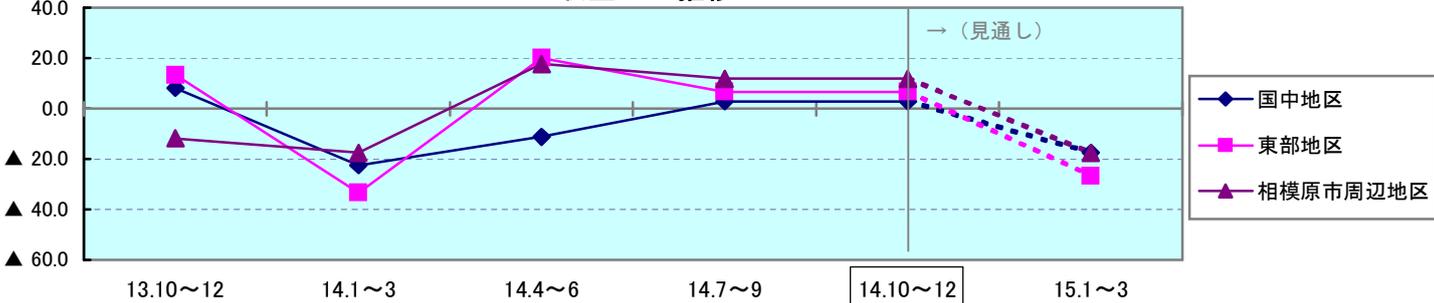
業況判断DIの推移



売上DIの推移



収益DIの推移

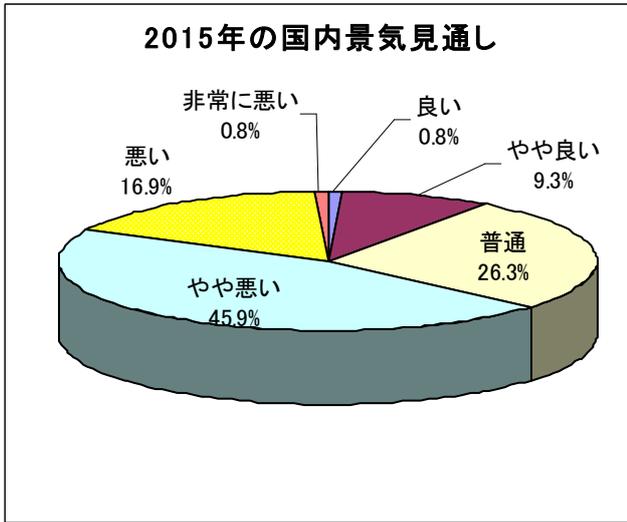


特別調査

「2015年（平成27年）の経営見通し」

◆貴社では、2015年の日本の景気をどのように見通していますか。また、自社の業況をどのように見通していますか。（回答企業数：118社）

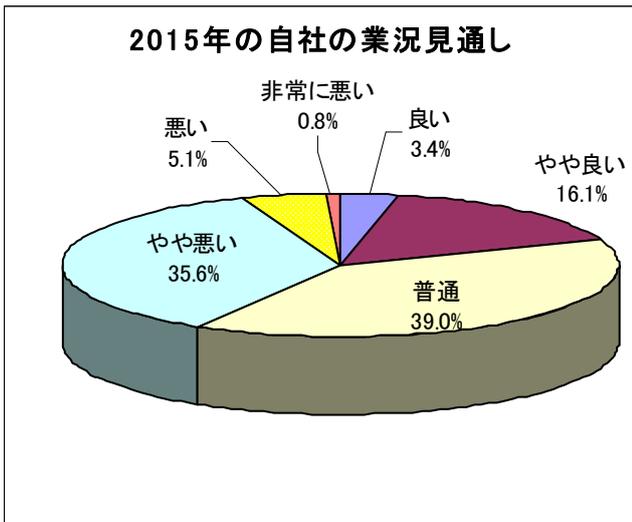
【2015年の国内景気見通し】



(単位: %)

	2015年 見通し	2014年 見通し
良い(A)	10.1	32.5
非常に良い	0.0	1.7
良い	0.8	5.8
やや良い	9.3	25.0
普通	26.3	39.2
悪い(B)	63.6	28.3
やや悪い	45.9	22.5
悪い	16.9	5.8
非常に悪い	0.8	0.0
DI(A) - (B)	▲ 53.5	4.2

【2015年の自社の業況見通し】



(単位: %)

	2015年 見通し	2014年 見通し
良い(A)	19.5	29.2
非常に良い	0.0	1.7
良い	3.4	6.7
やや良い	16.1	20.8
普通	39.0	45.8
悪い(B)	41.5	25.0
やや悪い	35.6	19.2
悪い	5.1	5.8
非常に悪い	0.8	0.0
DI(A) - (B)	▲ 22.0	4.2

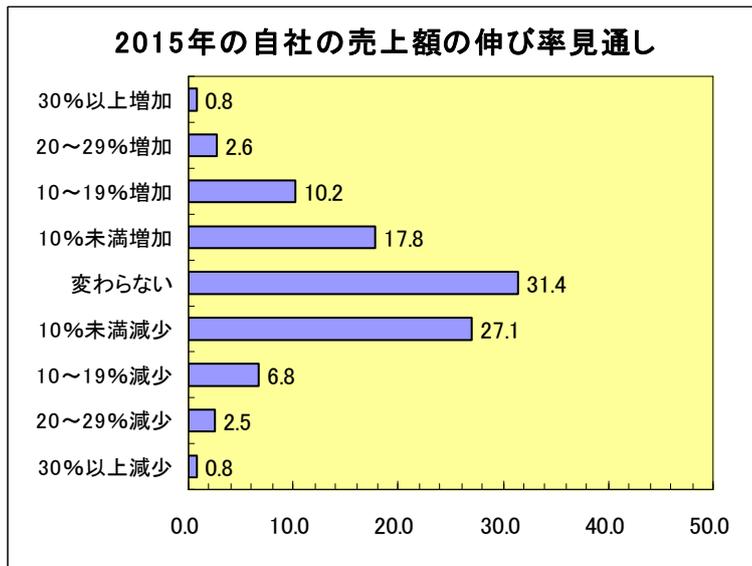
2015年（平成27年）の国内景気見通しについては、『良い』（「非常に良い」・「良い」・「やや良い」の合計）との回答が10.1%、『悪い』（「やや悪い」・「悪い」・「非常に悪い」の合計）との回答が63.6%となり、「良い（A）－悪い（B）」は▲53.5と1年前の調査（4.2）と比べて57.7ポイント悪化しました。

また、自社の業況見通しについては、『良い』（「非常に良い」・「良い」・「やや良い」の合計）との回答が19.5%と1年前の調査と比べて9.7ポイント低下するとともに、『悪い』（「やや悪い」・「悪い」・「非常に悪い」の合計）との回答が41.5%と同比16.5ポイント上昇したことにより、「良い（A）－悪い（B）」は▲22.0と同比26.2ポイント悪化しました。

2015年の国内景気見通し・自社の業況見通しは、ともに前回調査（平成25年12月調査）と比較すると『良い』との回答が減少、『悪い』との回答が増加しており見通しの悪化が見られます。なお、業種別にみると、国内景気見通しについては卸売業・建設業で、自社の業況見通しでは卸売業・サービス業・建設業で厳しい見通しを持つ経営者が多く見られました。

◆2015年において貴社の売上額の伸び率は、2014年に比べておおよそどのくらいになると見通していますか。(回答企業数：118社)

(単位：%)



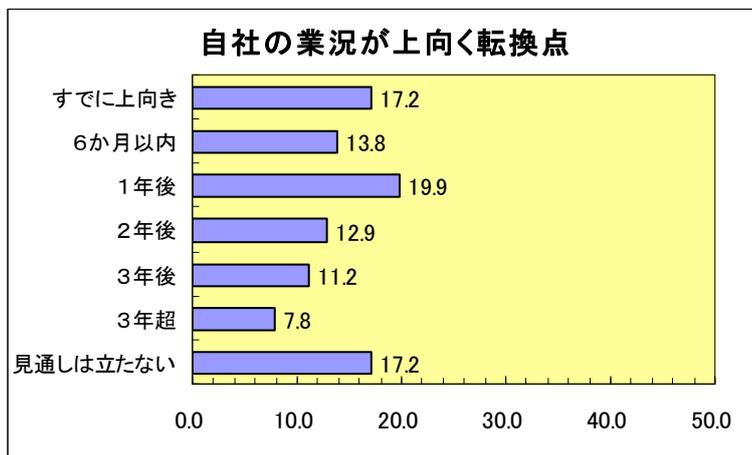
	2015年見通し	2014年見通し
増加(A)	31.4	41.6
30%以上	0.8	3.3
20~29%	2.6	1.7
10~19%	10.2	15.0
10%未満	17.8	21.6
変わらない	31.4	37.5
減少(B)	37.2	20.9
10%未満	27.1	15.0
10~19%	6.8	2.5
20~29%	2.5	1.7
30%以上	0.8	1.7
DI(A) - (B)	▲ 5.8	20.7

2015年の自社の売上額の伸び率は、1年前の調査に比べて「増加(A)」は31.4%と10.2ポイント低下するとともに、「減少(B)」が37.2%と16.3ポイント上昇したことから、「増加(A) - 減少(B)」は▲5.8となり、26.5ポイント悪化しています。

前回調査時では、アベノミクスによる株式相場の回復・円高の是正等の影響から、売上の増加を見込む企業が減少を見込む企業を上回っていましたが、今回の調査では、昨年から続く消費税増税等の影響から、売上の減少を見込む企業が増加を見込む企業を上回る結果となりました。

◆貴社では、自社の業況が上向く転換点をいつ頃になると見通していますか。(回答企業数：116社)

(単位：%)



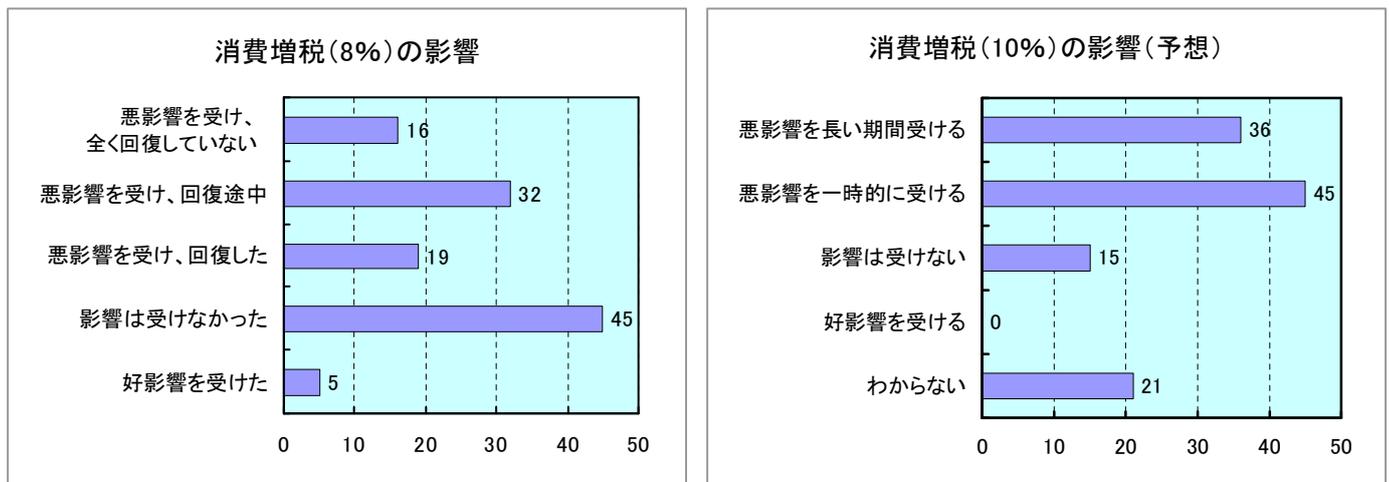
	2015年見通し	2014年見通し
すでに上向き	17.2	15.8
6か月以内	13.8	15.0
1年後	19.9	22.5
2年後	12.9	9.2
3年後	11.2	5.0
3年超	7.8	6.7
見通しは立たない	17.2	25.8

自社の業況が上向く転換点については、「すでに上向いている」との回答が1年前の調査と比べて1.4ポイント上昇の17.2%となりました。また、「6か月以内」との回答が13.8%、「1年後」との回答が19.9%と、全体の約半数にあたる企業が2015年は業況改善の年と見込んでいることが見てとれる結果となりました。業種別に見ると、小売業・不動産業で1年以内に業況が上向くとの回答する割合が高くなっており

また、「業況改善の見通しは立たない」との回答は、1年前の調査と比べて8.6ポイント低下の17.2%と改善となっており、依然として高い割合を占めている一方で、「2年後」や「3年後」に業況が上向くとの回答も増加しており、近い将来の業況改善の兆しがうかがえる結果となりました。

◆消費税が8%に上がった際、経営にどのような影響を受けましたか。また、10%に上がった場合、どのような影響を受けることが予想されますか。(回答企業数:117社)

(単位:社)



2014年4月に消費税が8%に上がった際の影響については、「悪影響を受け、全く回復していない」が16社(13.6%)、「悪影響を受け、回復途中」が32社(27.3%)と、約4割の企業が悪影響から回復していないと回答する一方で、「影響は受けなかった」が45社(38.4%)、「好影響を受けた」5社(4.2%)と、ほぼ同数の企業で悪影響は受けなかったと回答しております。

消費税が10%に上がった場合の影響については、「悪影響を長い期間受ける」が36社(30.7%)、「悪影響を一時的に受ける」が45社(38.4%)と、約7割の企業で悪影響を受けると回答しております。8%上昇時には悪影響を受けなかったと回答した企業でも、10%に上昇した場合には悪影響を受ける可能性があるという回答する企業も多く、更なる消費税増税に対して危機感を抱いていることがうかがえる結果となりました。

調査員のコメント

製造業

- 売上は上昇傾向にあるものの、原材料価格の高騰により利益率が伸び悩んでいる。また、製造ライン内の従業員が不足しており、若者を中心に雇用を働きかけている。(食料品製造業)
- 輸入材を使用した商品を取扱っていることから、円安の影響により収益が圧迫されている。今後、国内産で賄える部分については国内産の材料にシフトしていきたい。(木材・木製品製造業)

卸売業

- 山梨県内は、人口減少により市場規模が縮小傾向にあるため、近県への販売網の拡大を目指し、事業を展開している。(医薬品・化粧品卸売業)
- 消費税増税の影響から、一般消費者の消費意欲は依然として低調に推移している状況にある。仕入価格の高騰もあり、業界の状況は厳しい。(農畜産物・水産物卸売業)

小 売 業

○消費税増税後も影響は少なく、前年以上の売上を確保している。消費税が10%に増税されると悪影響が懸念されるものの、一方で固定客も多く、業況は堅調に推移していくものと考えている。

（自動車・自転車小売業）

○アベノミクスによる景気回復に伴う売上の増加に期待しているものの、期待通りの売上増加には至っていない。現在、消費税増税による売上減少からの回復に努めている最中であり、2015年10月に予定されていた消費税増税が延期されたことで、ひとまず安堵している。

（織物・衣服・身のまわり品小売業）

サービス業

○売上、収益とも減少傾向にあるが、人件費以外の部分での経費削減により利益確保を検討している。従業員の高齢化が進んでおり、若手の人員確保が急務である。（情報サービス・調査・広告業）

建 設 業

○入札等による受注工事獲得に苦慮している。他社にはない当社だけの技術を活かし、売上増加を目指したい。（設備工事業）

○請負工事について、受注数は増加しているものの、請負金額は依然として据え置かれた状態となっている。一方、下請業者への発注額は下請業者数の減少により上昇傾向にあり、利益の確保が難しくなってきている。（総合工事業）

不 動 産 業

○売上・収益ともに前年と比べて上向いており、景気回復の影響を受けている様子である。しかし、来年は売上の減少を見込んでおり、業況の見通しは芳しくない。同業他社との激しい競争の中で、商品物件の不足も影響を及ぼしている。（不動産代理業・仲介業）

編 集 後 記

平成27年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

このたびの中小企業景気動向調査におかれましては、皆様にはお忙しいなか、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

今回の調査では、業況判断DIが前期比3.3ポイントの改善の0.8となりました。来期の見通しについては、今期実績比19.4ポイント悪化の▲18.6ポイントを見込んでおります。

また、今回の特別調査では国内景気や自社の業況見通し、売上額の伸び率、消費税増税の影響等を調査しました。1年前の調査と比べると、国内景気・自社の業況ともに厳しい見通しを持つ経営者が増加し、消費税増税や原材料価格の高騰への対応等様々な経営課題を抱え、売上・利益の確保のため、経費削減や販路拡大等に苦慮していることがうかがえました。

このような状況下、各業種において重点経営施策の上位を占める取引先企業の販路拡大支援のため、当金庫は昨年度に引続き、3度目の開催となる「山梨しんきんビジネスマッチング」を11月に開催いたしました。多数の企業の皆様にご参加いただき、盛会のうちに終了することが出来ました。今後も、販路拡大支援を含め、中小企業の皆様を積極的に支援していく所存ですので、引続き当金庫をご利用いただきますようお願いいたします。